

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市青少年問題協議会
- 2 開催日時 令和6年2月27日(火), 午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 水戸市役所 4階 政策会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 会長
高橋靖
 - (2) 委員
田山喜子, 堀井武重, 荒川博紀, 大津辰夫, 中山一美, 佐藤百合子, 澤田幸宏, 白田茂司, 齋藤直哉, 杉本憲子, 水嶋陽子, 向後裕多, 滑川友理, 鬼澤真寿, 萩谷ふみ江
 - (3) 執行機関
湯澤康一, 堀晴子, 上木吉一, 野原愛莉
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 青少年・若者育成基本計画の進捗状況について (公 開)
 - (2) 青少年を取り巻く環境と各団体の取組について (公 開)
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称
 - (1) 水戸市青少年・若者育成基本計画(第2次)
 - (2) 青少年・若者育成基本計画の進捗状況について
 - (3) 地方青少年問題協議会法
 - (4) 水戸市青少年問題協議会条例

9 発言の内容

【執行機関】

本日は御多用の中, 御出席いただきありがとうございます。

委嘱状交付でございますが, 机上に委嘱状を配布させていただきましたので, 御確認をお願いいたします。

それでは, ただいまから令和6年第1回水戸市青少年問題協議会を開催いたします。はじめに

会長であります、高橋市長から御挨拶を申し上げます。

(市長挨拶)

【執行機関】

本日の議題に入ります前に、今年度初めての会議でございますので、御出席いただきました皆様に自己紹介をお願いしたいと存じます。なお、御発言の際は、お手元のマイクのボタンを押して、緑色が点灯してからお話ください。またお話が終わりましたら再度ボタンを押してスイッチをお切りください。それでは名簿順により、____委員からお願いいたします。

(自己紹介)

【執行機関】

続きまして、水戸市附属機関の会議の公開に関する規定第5条に基づく会議の傍聴についてでございますが、受付時間内の傍聴の受付はございませんでしたので、御報告いたします。それでは議題に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、水戸市青少年問題協議会条例第6条の規定により、本協議会の会長でございます高橋市長にお願いいたします。

【会 長】

はい。それでは、規定によりまして、議長を務めさせていただきますので、皆様方の円滑な御審議あるいは活発な御意見をいただきますようよろしくお願い申し上げたいと思います。それでは、議事に先立ちまして、議事録署名人の選出を行いたいと思います。議事録署名人2人につきましては、____委員と____委員をお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは、____委員と____委員よろしくお願いいたします。

【____・____委員】

はい。

【会 長】

なお、本協議会につきましては、水戸市附属機関の会議の公開に関する規定に基づきまして、原則公開とさせていただいておりますので、御承知おき願います。

それでは議事に入らせていただきます。1の青少年・若者育成基本計画の進捗状況について、お手元の資料に基づき、皆様方の御意見を頂戴できればと思います。まずはじめに、事務局から資料の説明をいたします。事務局お願いします。

(資料説明)

【会 長】

はい。それでは、ただいま事務局から、水戸市青少年・若者育成基本計画の進捗状況について説明をさせていただきました。今、御説明しました内容について、御意見、御質問がありましたら、発言をお願いしたいと思います。

【___委員】

2点気になった点がありましたので、発言させてください。

9ページに、NPO法人等が開催するこども食堂とありますけれど、こども食堂が青少年会館のスペースを利用して、こども食堂を行っているとの話を聞き、現場に行きました。その際、こども食堂の利用者が、子どもよりも大人の方が多いという話を聞きました。子どもと一緒に来られているから、随行者あるいは保護者として食事するのもかもしれないですが、大人が多いという現状はいかがなものかと感じました。

2点目が、11ページの、1人1台端末のアンケート機能を活用して、オンライン窓口を全中学校で開設したということですが、具体的に、子どもたちから相談があった件数と相談内容についてお聞きしたいです。また、ラインを子どもたちが活発に利用されてると思いますが、ラインでのいじめなど、ライン上で子どもたちが被害に遭っていないかということ懸念しているので、併せて回答をお願いします。

【会 長】

グループラインでのやりとりで、今、孤独や孤立が問題になっていますが、ラインなどのSNSによって、いろいろな人とつながることができ、孤独や孤立はしていないのではないとも言われています。しかし、実際は逆に、ラインでの既読スルーや、既読が付かない、返信がないといった点で孤独を感じているという、新たな問題も発生しています。この問題は青少年に限らずの話ですが、グループラインのやりとりの中でのトラブルなど、少なからず相談が来ているのではないかと思います。具体的な事例については、後日委員の皆さんに報告します。

それから、どなたかフードパントリーやこども食堂で、ボランティアを行った方はいますか。___委員、お気づきの点があればお願いします。

【___委員】

はい。おっしゃる通り、大人の方が大変多いという印象をやはり受けました。

私は、民間や企業で開催してる事業で、公営住宅の中の一角をお借りして実施しているものに、数回ボランティアで参加したことがあるのですが、こども食堂というよりはだれでも食堂というように、対象者を広げていたこともあると思いますが、確かに、子どもが少なかったと思います。

また、街中で行っているこども食堂に参加したこともあります。こちらでもやはり、もちろんお子さんもいらっしゃいましたが、あわせて大人の方もいらっしゃって印象は確かにありました。子どものためにという目的は大変良いと思います。

【会 長】

___委員がおっしゃった通り、貧困や生活困窮は子どもを持っている人たちばかりじゃなくて孤独で生活している高齢者もいますので、ボランティアの方々には先ほど話のあっただけでも食堂のような形で、対象者の幅を広めに設定している場合もあります。元々は、こども食堂という形で始まりましたが、幅広くやっている団体もありますので、それぞれの団体がどのような目的でやっているかによろしいと思います。困っているのは必ずしも子どもがいる人ばかりではないので、幅を広げることで支援できるのであれば、いいのではないかと考えております。ですが、誤解を招かないようにこども食堂ではなく、だれでも食堂など、活動がもっと分かるように、行政でもボランティアやNPO団体と情報交換していきます。

他にありますか。はい。どうぞ。

【___委員】

はい。今こども食堂の件で、___委員がおっしゃってましたが、私も前職のときに非常に児童数の多い学校に勤務していた際、こども食堂をライオンズクラブさんのお力で立ち上げることができました。その時は、貧困家庭の子どもを集めることは差別になってしまうので、例えば、誰でもというわけではなく、土曜日や日曜日にどうしても昼食等を準備できない家庭を対象とする形で実施し、実際子どもたちもたくさん来たんですが、合わせて、御家族の方も一緒にいられる方も結構多く、それに携わった方々からは、家族で来るのはどうかという話もありましたが、会長がおっしゃったように、誰でも受入れ、その場を人をつなげる場にしようという、新しい考え方で取り組んだという事例がありました。それによりいろいろな人との接点ができ、先ほど話題になっていた地域コミュニティの再構築にも繋げることができました。コミュニティの再構築は本来の目的ではないですが、そういった活動を各地域で広げていくことは大事なことであり、そういった形で、これから活用していくこともできるのではないかと思います。

【会 長】

はい。御発言ありがとうございました。

他にありますか。はい。___委員。

【___委員】

私の方から、3ページの、若者が自分で判断し行動できる力の育成、具体的施策の社会で求められる能力の育成、それから、若者の社会参画活動等への支援という3つの観点から、若者がこれから社会の中でどうすべきなのかについて、宮城県女川町での、まちづくりに30、40代の人たちが関わって、これからのまちを考えるという取組が新聞に掲載されていたので、中学生や高校生が水戸市のことをよく知り、これからの水戸を考えていくために、サブリーダーやみと青年会での活動だけでなく、もっと広い視野で物事を探求していくためのチームを育成して、私たち世代が取組んでいる社会活動の中に、若者の意見を取り入れるときのつながりを構築していきたいので、工夫していただけたらいいなと思います。本日の会議は青少年や若者の問題かもしれませんが、水戸市全体から考えると、社会活動しているのは、どうしても年齢的に私の年代にな

ってしまうんですね。でも、水戸市の予算を使っているような施策を進めていくためには、若者の意見が大切だと思います。ですからその意見を上手に生かしていくための施策を何かに反映できないかなと思っております。

【会長】

はい。こつこつとはやらさせていただきます。

実は、本日の午後に常磐大学高等学校との懇談会があり、先日は茨城県立産業技術短期大学校いわゆるIT短大の学生から、水戸のまちづくりについてプレゼンをもらいました。

市政モニターについては、子育て世代に限定をさせていただいており、いわゆる上限の年齢制限を設けさせていただきます。

それから今、梅まつりシーズンなんですけれども、チーム魁という活動では、中学生に、ボランティアとして観光案内をさせて、水戸市への郷土愛を育み、中学生のうちからいろいろなことを知ってもらったり、大人と接するコミュニケーション能力を養ってもらったりすることで、社会で活躍していただくという取組をしています。また、ふれあいまつり等の各地域のお祭りに参加し、中学生を地元のふれあいまつりに絡めて、ボランティアさせています。中学生がブースを運営し、ゲームを企画するなどして、子どもたちや若い人たちと関わることを各地域や行政で行っています。ただ、まだ足りていないのだろうと思っています。

これから、行政では広聴広報の機会を持っていますので、市政モニター制度に限らず、若者が、積極的に意見を言う場を増やしていければと思います。若者との問題意識は同じなだけでも、解決方法が違って、それをどう解決していくかについては新たな展開が期待されます。そういう機会はどんどん作っていききたいなと思っています。

___委員がおっしゃる通り、取り組んではいますが広がっていないことは認識しておりますので、若者のカテゴリーが何歳から何歳までかというとなかなか決めるにくいところがあるんですけれども、できるだけ、今まで私たちが関わった世代よりも下の世代が、行政との関わり合いを持つ機会は増やしていければと思っています。

はい。他にありますか。ないようでしたら、引き続き、皆様方に御意見等いただきながら、この計画を進めていきたいと思っています。

それでは、次に、青少年を取り巻く環境と各団体の取組についての議題に入ります。本協議会の目的の一つに、関係機関相互の連絡、調整がございます。そこで本日御出席の皆様方から、日頃どのような活動をされているのか、情報共有していきたいと思っていますので、いろいろな活動をしている中で、青少年若者を取り巻く環境などについて、感じていることなどもお話をいただければと思っています。時間の都合上、一人3分程度でお話していただいて、その後、今度は団体関連で御質問等を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、___委員からお願いします。

【___委員】

私たちは、昨年度水戸学に学ぶ青少年育成というタイトルで、歴史館の特任研究員の永井博先生をお招きして、3回に分けて講座を開催いたしました。皆様に報告できることとしたら、水戸学は当初歴史学となっていたが、時代の流れで政治学に変更していったという報告を受けまして、

今の青少年育成に生かせることは何だろうと考えました。そう考えたときに、個人の見解なんですけど、やはり、水戸は魁というそのキーワードが市長からもありましたけど、時代を読んで、次の育成に関わるという、子どもたちへの先取り精神みたいなことを強くアピールして子どもたちに水戸学に誇りを持って、僕たちは教育の先進的な役割を果たした水戸に生まれて、今後、自分たちが動かしていくというそういう気概を伝えられたらなと私は感じました。あと、彰考館とか歴史的な施設がありますけど、その象徴の既存の観光施設ではなくて、先代がここで水戸学を学んだんだみたいな、その場で自分たちも水戸学やその先取りの学習をするんだみたいな、もっと子どもたちに身近に利用していただくのもありなのかなと感じました。以上です。

【会 長】

はい。ありがとうございます。それでは、___委員，お願いします。

【___委員】

はい。市長さんもおっしゃった通り笠原中学校区では、笠原まつりという形で、中学生にブースを与えて販売を行ったり、ステージでダンスの発表などしたりするなど、いろんな活動を自主的にやってもらっております。

その他、敬老会、福寿のつどいですか。これについては、小学校4年生の発表を高齢者の方に見てもらおうというような形で、毎年4年生を中心に、いろいろ学校で計画してもらっています。あと、小学校についてもなかなか手配ができなかったんですが、中学校といろいろお話をしようという形で、そういう接点があります。

それからあと、防災訓練も、私のところは日曜日に学校も一緒になって、1年生から6年生が何をやるのが毎年決められまして、6年間で全部消化するというような形をとっております。

そういう面で、できるだけ学校とのつながり、子どもさんとのつながりを良くしていきたいと思っています。我々の内容もできるだけ子どもが参加できるものを計画するというような考えで、お金がかからない、ウォークラリーとか、サイクリングを、これも40年以上行事として毎年続けておりますので、そういうのも、これからも大いにやっていきたいというような考えでございます。以上です。

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは___委員お願いいたします。

【___委員】

はい。___としましては、公益法人として、主に、ひとづくりまちづくりをメインとして活動しておりますけれども、特に青少年育成の部分に関して言えば、ひとづくりとしまして、毎年5月にちびっ子広場というものを、千波湖の周りでさせていただいております。今年で49回目になるんですけども、もともと当時は、子どもの交通事故が多かったというところで、交通安全啓蒙を軸に活動して参りましたが、現在の社会情勢や、車の技術の発達もあって、交通事故自体はそこまで増えてないというところで、じゃあ何のためにやるのかという新たな視点のもとに、毎年テーマを変えてやってるんですけども、去年で言えば、子どもたちの自尊感情を高めたい、

今年で言えば、やっぱり水戸の歴史とか、水戸の郷土愛を育むために、事業を開催したいという思いで、今年のキーワードは、自己肯定感じゃないですが、水戸肯定感という水戸を自ら発信できるような子どもたちの育成をメインにして、事業を構築させていただいております。これは予定通り5月に開催することになっております。先ほどいろいろなお話を聞いた中で、やっぱり、この事業に関しても、水戸市に補助いただいている事業なので、各種団体等と協力しながら、この基本計画にある事項をもとに問題解決に協力していければいいなと思っております。以上でございます。

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは____委員さんお願いします。

【____委員】

はい。それでは、まず、私どもがどんなことをしているのかということでございますが、1つは更生保護、残念ながら犯罪を犯してしまった方々が、正常な社会生活をできるように、立ち直りを支援するというようなことを主にやっております。

それから、私どもの2つ目でいえば、犯罪を犯した人たちの立ち直りを支えるだけではなくて、その後の犯罪を起こさないように、社会を明るくする運動を中心として、正常な社会にするというようなことで活動しております。社会を明るくする運動は主に7月を中心に、いろんな呼びかけであるとか、作文を募集したりとか、いろんな集会をしたりとか研修会をしたりというようなことで、社会が正常な形で動いていくように手助けしています。今、この社会の正常化のために、学校さんからも協力をいただき、私どもは、挨拶運動であるとか、それからいろんな学校の行事等に御協力をさせていただくとか、そういうようなことをやっております。

そして、3つ目の話でございますが、この進捗状況というようなものを聞かせていただいて非常に素晴らしいことで、私は2、3回ここに座らせていただいているわけなんですけれども、毎年向上しているなど感じております。今日ちょっとこども食堂の方が話題になりましたが、県全体の保護司会と関連して、今動いておりますが、ある財団から、20万円ほど、茨城県のあるこども食堂が補助をいただいているんですね。大変役立つという話を聞いているので、実は水戸にもこども食堂があるのかと、自分の地元だし、協力しないのもなということで、ちょっと動いてみたら、こども食堂じゃないんじゃないかと先ほども話が出ましたが、ですからその名前については、目的も含めて考えると、こちらの応援もできるような部分があるのかなと思いつつながら、述べた3本でございます。以上でございます。

【会 長】

はい。ありがとうございます。それでは____委員さんお願いします。

【____委員】

はい。隣の____委員が今お話ししたように、私たちの会は創立70周年なんですけれども、ぶれることなく、犯罪を犯した人たちの立ち直りを助けるということと、青少年の健全な育成ということの2本柱で活動しております。今、犯罪を犯した人の立ち直りということでは、____委

員がおっしゃったように社会を明るくする運動で、車の両輪じゃないですけども、保護司会と協力して、生涯学習課の御協力で活動しております。もう一つの子育て支援という、青少年の健全な育成ということでは、今年で13回目になりますけれども、夏休みに入って、第1回目の日曜日に、水戸市の祇園寺で、親子で座禅と抹茶をいただくというのを行っております。コロナで、2回程中止になりましたけれども、継続して行っております。それと、11ページにある、子育て支援ということで、水戸市の御指導のもとで、わんぱくとはみんぐぱくが書いてありますけれども、私どもは五軒小学校の空き部屋を利用して、ぼかぼか広場ということで、毎週1回、子育て支援として、地域の親子の方に来ていただいて、見守りという形で活動しております。以上です。

【会 長】

はい。ありがとうございます。それでは次に、____委員さんお願いします。

【____委員】

私は、水戸市に基盤を置いている11か団の団体で会議を年に何回か行っています。

普段は指導者の話し合いが多いんですけど、年に1度、大きな大会として、スカウトがメインで行うスカウト大会があります。これは高校生のスカウトが企画をして、11月にスカウトに声をかけて、実際に幼稚園ぐらいの方から、スカウトを集めて、何らかの催しをするっていう事業なんですけど、それが、年間7回ぐらいの会議があって、昔は高校生だけで話し合いをして、そのサポートとして私たちが見ている、進めるときにフォローするとかだったんですけど、今は、高校生は学校が忙しく、残ってくれる人も少なくなってしまう、いないわけではないのですが、やっぱり、スカウトが3人で、大人10人とか、そういう中でも、とりあえずスカウト大会は続けたいということでやってるんですね。昨年50周年を迎えまして、5人の高校生スカウトが来て、企画をして、そのフォローをしながら、50周年の人文字を作ったりとか、アイデアを出してくれるんです。大人の考えでは出てこないものもあるし、その時にしか、なかなかしっかりと話ができないので、この機会はなくしたくないとも思っています。

何とか、スカウトたち、子どもたちに残ってもらいたいです。やっぱり習い事と違って、生きるいろいろな術を知っていくという、あと大人と関われる貴重な機会だと思うので、これを何とか続けていけるように、これからもこちらの会議でも話をしていきたいと思っています。以上です。

【会 長】

はい。ありがとうございます。はい。それでは次に、____委員さんお願いします。

【____委員】

私たちは、1年間を通して、市内の子どもたち、約4,000人から5,000人の子どもたち相手に、スポーツであったり、歴史や文化、そしていろんな行事を、遊びながら学ぶという活動を支援するという形をしております。また育成者に対しては、研修会であったり、各学区の連絡協議会でありまして、現時点では悩みとか、事業などを、共有していただく場を提供し、育成者同士の交

流の場ということも作っております。子ども会としては、学校では学べないようなことを、学校だと多分、同級生として団体行動とか見ると思うんですが、子ども会のいいところは、異年齢の中で、上級生が下級生に教えていろんなことを学んでいくということが大事であって、なかなか、ゼロから上級生が下級生に教えて、お互いのキャッチボールは、最初ゼロからスタートして、体感できるまでという、どう成長していく過程を見れるということがありますので、素晴らしい活動だと思っていますので、市内でまだまだ入られていない方にも、ぜひ入っていただけるよう、PRしながら、団体も活動を続けてるところでございます。以上です。

【会 長】

はい。ありがとうございます。次に____委員さんお願いいたします。

【____委員】

はい。____は、先日、私たち平成5年に、市内の20団体の活動している皆様を、一応連絡協議会的に結びまして、男女平等参画社会を作るために、2001年に日本女性会議 2001 みに開催するときには、実行委員になってお手伝いさせてもらう形で、情報交換しながら活動を続けてきておりまして、30周年ですね。1月の末に、市長さんを招いてお祝いをしたところでございます。私たち女性会議では、9月に男女共同参画月間の幕開けに映画祭ということで、男女平等参画に関わる市民に啓発する意味のあるテーマを持った内容で、上映するんですが、前年度は「ママをやめてもいいですか!？」という、子育て世代をターゲットに、はみんぐぱーくとかわんぱーく、保育所の方にチラシを配らせていただいて、子育て中の方も、参加できますよという形で開催いたしました。普段はやはり私たち企画する側なので、どうしても、人生全般に関わる題材が多いんですけども、やはりこれから子育てを私たちは応援していかなければならないという認識がありまして、前回作ったときには子どもさんを抱いて御夫婦で見に来た方もいますし、できるだけ私たち世代も、こんな形で活動していきたいと思っていますところなんです。それからコロナの時代からもう4年が過ぎましたけれど、接種時の予約で、私たち世代がかなり苦労して、スマホの使い方ができないときに、若い人たちに大分教えていただいたという形で、若い人とシニア層のつながりが、そういう時にしっかりと、若い人ってのはすごいねっていう部分を感じたところが、ずっと続いているわけなんです。これからはDX化だと聞いてますので、できるだけ若い人を身近において私たちも進めていきたいと思っています。以上です。

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは____委員お願いします。

【____委員】

はい。____といたしましては、活動内容は9ページの中程でございます。非行・犯罪対策の推進というような形でもって、主に中央補導、地区補導というような活動をしております。相談員といたしましては、学校の先生方で小学校、中学校の先生方が70名弱、それから各中学校小学校のPTA、中学校の青少年育成会、民生児童委員、更生保護女性会、保護司会、女性会、子ども会、ライオンズクラブなどの団体をお願いしております。多くの団体から推薦してもらうことに

より、いろいろなつながりが生まれ連携強化につながっていると思います。中央補導といたしましては、水戸駅周辺の駅ビル、ゲームセンター、川沿い、公園等を行っております。午前午後夜間に行っております。地区補導といたしましては、市内を7地区に分けております。子どもの下校時間に合わせて行っております。中央補導といたしましては、ほとんど以前は喫煙防止の声かけが多かったんですけども、現在は帰宅指導、遅くならないように早く帰ってねというような声かけをするのが、主な声かけの内容となっております。地区補導といたしましては、学校の先生方が一緒に同行することによって、生徒たちの顔見知りの大人と一緒に活動することで子どもたちも受け入れていただけるのかなというふうに思っております。青少年相談員の50周年の記念事業を行うことができまして、活動の様子をDVDに収めまして、研修にこれから役立てていきたいなというふうに考えております。以上です。

【会 長】

はい。ありがとうございます。それでは次に、___委員さんをお願いします。

【___委員】

___です。構成団体としてですね、約90団体、各地区中学校区の青少年育成会であります。その他ロータリークラブ、ライオンズクラブさんもありますが、青年会議所さんでありますとかボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会、子ども会育成連合会、相談員連絡協議会など、今日御参加の団体の方々も構成団体としまして約90団体で構成されております。会報誌道芝というものを発行したり、こどもの安全守る家ということで市内に2,071か所ですが、こういった看板を掲げて、子どもがもし、変な人に追いかけられたときであるとかトイレを借りたいとか雨宿りをしたくなったりとかって言った時に協力してくださる家あるいは事業所に協力をいただいて活動しております。こういった形で子どもの安全守る家のマップを作ったり、千波地区や双葉台地区などで作ってですね、子どもたちにこれを配って、もし困ったときにはこういうところに入っていいんだよといったことを教えてあげたりして、小学校と中学校でこういったようなパンフレットを配布して、子どもたちにもわかるように教えてあげています。今こちらは男の子と女の子となっておりますが、今度は、そうではなく性別とか国籍とか多様性というところで、もっといろいろな子どもの絵に変えようという話にもなっております。その他、標語塔ということで市内にはこういった形で青色の鉄塔がもともと16か所ぐらいあったんですが、今9か所で撤去を進めています。令和元年の千葉県の大風で鉄塔が倒れたときに見直しを図りまして、予算的になかなか大変なんですけど、撤去ということで、もしこれが倒れてけがをした人が出ることは絶対に避けたいと思っておりますので、予算的に厳しいんですが、生涯学習課に御協力いただいたりしながら進めておる状況であります。その他、中学生交流会といいまして、市内の全中学校の代表の方に集まっていただいて、一堂に会して自分たちでテーマを決めてもらって、話し合いをしてもらって、提言をしていただくというようなことをしておりますし、水戸市少年自然の家におきましては、主に小学生が対象ですけど、レクリエーションを行って、あるいは以前は宿泊を伴う活動を行ってまいりました。そういった子どもたちと一緒にやる活動、中学生のジュニアリーダーズや高校生のサブリーダーズ会といったところ、あるいはみと青年会さんとか学校、地域、市民センターに協力いただいて、子どもたちが、自由にいろんなことができると楽しいなと思えるような、家庭って

いいなとか、社会っていいな、大人になるっていいなっていうことを考えられるような世の中にしていきたいと思って活動しております。以上です。

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは次に、____委員さんお願いします。

【____委員】

はい。____では年に数回研修会を行い子育てだったり、先ほど出ました子どもたちの自己肯定感、やっぱり今の子どもたちは、とても否定的というか、私は何々できないから無理と、まず無理っていう言葉を発することが多いなって自分の子どもたちを見てても思うんです。やっぱりその肯定感っていう意味では、日本は、自分のことを、否定しがちな人種であるかなっていうふうに私は思っていて、外国の方とか見ると、私何々できるよと、そのアピール力もそうですけどやっぱり強いなというところも感じるころではあります。

また、私小学校のPTA会長をしております、そちらの方でも、不登校がすごく大きな問題で、今は相談室という形でそこを利用したり、保健室にいる子どもたちがいたり、また校長室にいる子どもたちがいたり、各々好きなところで朝の時間を過ごして、そこで精神面を整えてから教室に行ける子と、やはりそこで今日はやめとくと帰ってしまう子の、二手に分かれてるっていうのが今の現状でもあります。先生の数も大変少ないので、先生が欠勤すると、そこに教頭先生や教務主任が授業に入っているということでは、子どもたちがあっちこっち教室移動をしてしまうと、その子どもたちの居場所がやっぱりわからなくなってしまう、学校から出られてしまうと安全面が守れないというのも大きな課題だと思っております。

また、会長会議でよく聞かれるのは、役員を引き受けてくれるお母さん・お父さんたちがやっぱり少ないということで、誰かがやればいいじゃないという意識がどこの学校も強いようです。私は保育園の方も会長をやらせていただいているんですけども、こちらもしっかりやるからには、何か自分にプラスにならないと意味がないっていうことをあっちこちでも言わせていただいています。寿小学校は先ほど____委員からもありましたとおり、とても小学校も中学校も、ボランティアをいろんな面で募っては、挨拶運動だったり、お祭りだったり、とても地域のお力添えが強い地域として、あっちこちから寿地区ってすごいよねということで、お褒めの言葉をいただいととてもありがたく思っているところであります。

今後とも、皆さんの御意見を聞きながら、子どもたちを見守りながら、育成に関して、御相談していただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

【会 長】

はい、ありがとうございます。

それでは続きまして大学で教鞭をお取りになってる立場から、最近の青少年、若者の取り巻く環境などについて、お話をいただければと思います。はじめに____委員さん、お願ひいたします。

【____委員】

はい。そういう観点のお話にならないかもしれませんが、今お話を聞きながら、私の方では、

皆さんのような様々な関わりっていうところではなくて、学校の教員・養成という立場でありますので、学校の教育中心っていうことにはなりますが、今皆さんの話を聞いて、地域で多様な活動、それから多様な世代や立場の方々に対して、いろんな活動されていること、本当に勉強になっております。大学の学生さんも、やはり子どもたちが育っていくというのは、学校を含めていろいろな環境だと思いますので、そういうことを知っていくということは、大事だと改めて思いました。

今回御報告の中の活動として、大学で直接関わっているのは、大学との連携とか、それからボランティア活動等でお世話になっていることがあると思います。学生も様々な学校の学習支援ですとか、学校行事でもボランティアの機会を作っていただいて、ただやっぱり学習面だけじゃなくて様々なコミュニケーションをとおして、子どもとの関わりという部分としてのあり方を見直すということを見せていただいております。

今いろんな子どもたちや若者世代の問題について、お話がありましたけれども、やっぱりそういう面から考えても、私は、大学でも一人一人の声を聞けるとか、それから、なかなか声に出せない方もいらっしゃると思うので、そういった方に寄り添えるような教員になっていくということとを大事にしていかなきゃいけないなと感じました。

【会 長】

ありがとうございます。続きまして___委員さん、お願いいたします。

【___委員】

はい。今日日の学生を見ておりますが、本日のようなですね、様々な活動に大学生として、また水戸市様の活動にもお声掛けをいただいて、学習などの様々なところで参加させていただきまして、感謝しております。やはり今日の学生は非常に幼いといいたいまいしょうか。10年に1歳ずつ学生の精神年齢は若くなっていくと言われておりますが、そうした意味でなかなかまだ担い手という点では不足しているところがあると思いますが、今様々な活動を通じて、これから社会で役立てる人間になってほしいなと思って、私どもも学生の背中を押している状況でございます。

そうした中で、やはり一番気がかりなのは、今日の活動などの状況を聞かせていただいても、すべて素晴らしい活動ですが、担い手の参加者もかなり固定化する傾向があるのではないかと思います。それは、学生も同じで、様々な活動があるんですが、ほとんどそれに出る学生の裾野は広がりにくいというのがあります。私どもとしても、一つ参加してみると、そこから色々広がっていく。そうした社会との関わり方を広げられるよう、学生の背中を押していければと思っております。

【会 長】

はい。ありがとうございます。続きましてですね、学校のお立場から、最近の青少年・若者を取り巻く環境についてお話をいただければと思います。___委員さん、お願いいたします。

【___委員】

はい。___では、小学校中学校部会と高校・特別支援学校部会ということで、大きく二つに分

けて、年間活動しております。

小学校中学校部会の方では、専門家の先生や弁護士さん、先生方とお話しして、今年度ですといじめ対応として、解決方法について、法律に則って、学校の方で対応しておりますので、そういった専門家の話を聞く機会を設けているところです。

高校・特別支援学校部会の方は、基本計画の基本方針に当てはまるところの取組と考えております。年間3回水戸駅の巡回指導を行い、協議会で集まった際には、学校の現状の情報共有、特に高校・特別支援学校部会の方でいつも話題に出るのが、いじめの対応で、いじめというのは、何でもいじめになってしまうようなことですので、その時はガイドラインに従って対応しています。

あとは校則問題ですね。今、生徒に考えさせて、生徒たちで校則を作っていくところ、各校取り組んでおります。特に女子はスカートで男子はスラックスという点や、髪を染める染めないといった、いろんな細かいところを今、我々も大変ながら、整理をして話し合いをしているところです。

今後も引き続き、児童生徒が、安心安全な学校生活を送れるように取り組んでいきたいと思っております。以上です。

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは議会のお立場からお2人、お話を伺いたいんですが、特に市議会議員という立場じゃなくても、これまでいろいろ活動されてきたことも含めて、ありましたら皆様に御披露いただければと思います。___委員さん。

【___委員】

はい。ありがとうございます。水戸市議会と青少年というところで、改めて私も考えてみると、なかなか政治・議会と青少年が近いところにあるかと、私も改めて考えさせられました。

水戸市議会には28名議員がおりますが、改選後、水戸市議会が始まってから、過去最多の女性議員が8名になりまして、どれだけ多くても4名しかおらなかった現状があったんですが、今回倍増して8名入りました。やはり議会の中も多様でなければならないというふうに私は思っておりますので、そして世の中は男女半々いるわけですから、女性が8名入ってきたことで、議会の中の質疑も、内容が少し変化が見られまして、子どもや子育て、そういった教育に関する質問というのは大変活発になってきたかなというふうに思っております。そういったことから、青少年を取り巻く環境という、これが話題に上がることってというのは大変増えたかなと思っております。

また、議会全体の年齢も若干下がったってこともありまして、よりSNSとかインターネット、そういったものを活用した発信の仕方とか、それで主権者意識の向上を青少年にも図っていただくとか、そういったところは徐々にできてきたのかなというふうに思っております。

私個人としてはなんですけれども、まず、比較的中学生から20代ぐらいの方々とよくお話をする機会が大変多いものでして、その中でそのライフステージに応じたいろんなお悩みや御相談をお聴きする機会が大変多いです。

ただ、子どもたちを見守る姿勢、青少年を守る姿勢というところで、地域コミュニティ、町内

会、自治会、そういった言葉が先ほどから上がっております。私も、災害が多い中で、やはり地域の力こそ、防災の力というふうに思っておりますし、地域コミュニティが大変重要だと思っております。政治と地域コミュニティってすごく似ているなど思ったのが、どうしても建前として、住まいは戸建てがあって、御結婚していて、片親ではなく両親がいてというのが前提で、そういった組織がつけられている。それ以外の人はなかなかそこに参画できないという現状を、実際に耳にすることも大変増えました。

ですので、今後の、私自身の課題としては、いろんな暮らしの仕方をする方々がいらっしゃって、昔は戸建てが当たり前でしたが、そのうちに公営住宅が主流になってきて、その後アパートやマンションが増えた、いろんな暮らし方も変わってくる中で、やはりコミュニティに参加する、青少年を見守るといった選択肢をきちんと増やすこと、仕組みを設けること、これが議会としての役割であり、間違っても選択肢を狭めて、排除するようなやり方というのはしたくないなというふうに思っております。あわせて、自分事と思っていただきたいので、引き続き主権者意識の向上とか、政治・議会というのは、大変身近なんだよということは、発信していきたいなというふうに思っております。以上です。

【会 長】

はい。ありがとうございます。はい。___委員さん。

【___委員】

はい。ありがとうございます。皆さんのお話を聞いていますと、やはりそれぞれの団体さんでそれぞれの方々がほぼボランティアという形で、子どもたちあるいは青少年のために、日頃から尽力してくださっている方たちがいて、実際には世の中が成立しているんだということを、果たしてどれだけの人たちが認識してくれているだろうかというそこが一番やっぱり私としては、ちょっと歯がゆいというか、残念な部分かなというふうに感じています。

今日皆さんのお話を聞いてますとやはり、先ほどちょっと申し上げたんですけれども、たぶんここにいらっしゃる皆さんは、つなぐ役割をしてくださってるんだと思います。さらにつながるということをしていくのは、今度は子どもたちであり、青少年であり、そういった人たちが横の広がりでどんどん、自分自身がいろんな人とつながっていく。そのためにはきっかけが必要なので、つなぐという役割を誰かが果たさなければならぬ。それを皆さんが果たしてくださることは非常に水戸市としても、大きな役割を担っていただいているなというふうに思います。

自分は今までは学校の一教師として、子どもたちあるいは保護者、地域のつなぐ役割を果たしてきたという部分はあるんですが、また今度は立場が変わりましたので、今___委員さんがおっしゃったように、政治的に一体何ができるかって言ったらば、やはりそういった場をたくさん提供するっていうことですね。

例えば市長さんは子育てとそれから教育に力を入れていくんだということで、4月から総合計画が展開されていくんですが、そういった面での支援は自分の政治生命をかけてっていうつもりでやってくださってますから、それは十分効果が期待できると思います。経済的な支援という意味では非常に若い世代は大変喜ばしいことだと思います。

それとともに、やっぱり心理的な支援、これが一番大きいんじゃないかと思うんですよ。その

心理的な、心のつながりだとか支えになる部分を、皆さんが今、いろんな活動の中で担ってくださっていて、ぜひ今度はそれを私たちがこの政治という立場から、それを伝えに行って、生まれる前から子どもたちを、子どもたちばかりじゃなくて若い夫婦であれ、若い世代であれ、そういった方たちをずっと連続して見守っていく環境を作るという、そういったことがやっぱり政治の一番大きな役割かなというふうに思います。

____委員さんもそうですが、私たちはこれからいかにして、子どもたちの力、子どもって言うても、すごいですよ。小学校一年生であっても、すごいプレゼン能力を持ってるし、今はもう皆さんタブレットを使えるようになってますから、パワーポイントでも何でも小学校一年生が今つくれるんですよ。発想力豊かだしそういったことをやっぱり、水戸市の市政に生かしていく、あるいは生活の中に生かしていくっていう体験を連続的に小さいうちから積み重ねていくと、必ずそれが成功体験になって自己肯定感を高めて、自分も政治とかやってみたいとか、行政とかやってみたいな、こういったボランティア活動をおじちゃんおばちゃんたちと一緒にやってみてほしいなっていう心が間違いなく育つんですね。

そういう意味の連続性というものと、つなぐ・つなげるっていう部分と、そういった観点から、水戸市を見ていくと、さらに住みやすい水戸市として、つくば市を抜いて移住者ナンバーワンを目指そうとしているところですから、そういった地道な努力を積み重ねることで、変わっていきえると思いますので、子どもたちの力はもちろん、高齢者の力、うちの父はまだ93歳で働いてますから、高齢者の力もすごいパワーになるんです。

そういったところを生かしてぜひ、皆さんと一緒に、水戸市のために、子どもたちのために、若者のために活動していきたいと思いますので、これからまた、たくさんの機会を通して皆さんからいろんなことを学ばせていただいて、水戸市づくりを進めていけばというふうに思っております。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

【会 長】

ありがとうございました。

それではですね、長年青少年育成に携わってきた立場から、また最近の青少年育成を取り巻く環境について、お話をいただければというふうに思います。____委員さん、お願いします。

【____委員】

____に参加して、もう27年になります。初めのころは、学校が荒れていて、卒業式に卒業生が校舎に上って騒いでいて、賞状をもらうのも長い制服を着て行くんですが、校長先生からひたたくってもらえるような時代で、水戸駅に行っても、子どもたちが駅の階段に座っていて通れないといった、今では考えられないような頃から補導をやっています。どうしてそんなに変わったかを考えると、その頃はスマホなんてなく、友達と会って一緒にやってコミュニケーションを図るといった方法でした。

そんなふうにしたコミュニケーションだったと思うんですが、今はスマホでのコミュニケーションでどんどん子どもたちが見えないところで、違うほうに進んでいます。その点で私たちが補導で歩いても、子どもたちの姿を見なくなって、その分子どもたちは家か、外かは分かりませんが、スマホを通してのいじめだったり、あとコミュニケーションをとったりとか、そちらにシフ

トしてしまっ、それを私たちはどのようにして把握したらいいのかなと最近思っています。それで、補導で会う子どもたちは素直な子で、子どもたちは月曜日にいることが多く、土曜日に何かあって代休という子は、水戸の子よりも、他の地域から電車に乗って、水戸で遊ぶ子が多いんですが、お話を聞くといい子たちで、こんなことがあったとかお話してくれて、あまり使いすぎないようにして気をつけて帰るんだよと話をするんですが、そういう子たちはまだいいですよ。見えない子たちは何してるのかな、どうすればいいのかみたいなことを考えていて、皆さんと御相談しながら、どんな方向でいけば子どもたちが育っていくのか、そういうことも考えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会 長】

はい。ありがとうございます。皆さんのお力添えをいただいて、予定の3分前に終わりました。御協力に感謝申し上げます。

せっかくの機会ですから3分ぐらいありますので、何か団体同士で聞きたいことや言い残したこと等ありましたら、御発言いただければと思います。はい。___委員。

【___委員】

先ほども少し話があったんですが、会報誌などの冊子を物理的に作ることはお金がかかって、編集はできる、ワードはできるんだけど、もうあと印刷して冊子にすればいいだけという段階まではできるんですけど、なかなかそれを印刷かけてというのが難しい。セキュリティ対策とか考えますと、ドメインとして、.jpや.ne.jpとか、水戸市でしたらローカルですので.lg.jpですけど、そういった信頼のおけるドメインのWebサイトにおいて、アーカイブであるとか、あるいは、行事の予定とかというのを、偽サイトとか嘘が書いてあるとか、いろいろ危険がウェブサイトもある中で、そういうきちんとドメインを指定した中で、水戸市の公式ホームページからいけるところ、.lg.jpのドメインのところ、そういった広報や記念誌というようなものを置くことができ、限定的にそこだけ見ておけばそんなに危なくないという場所を設けていただければと思っています。そういった水戸市の公式ホームページの中にいろいろ関係団体があって、これはNPOとかも含めた形だと思うんですね。今日こられていない、___さんあるとかを含めて、水戸市がここだったら大丈夫というところを設けていただければ助かるなというふうに、費用的な面からも思っています。

【会 長】

はい、わかりました。ちょっと今すぐに返事ができないのですが、あとで魅力発信課とやりとりをしてください。どういうふうな処理で、そういう貼り付けができるのかとか整理してください。

【執行機関】

はい。分かりました。

【会 長】

お約束の時間になりましたので、皆さん活発な御意見いただきまして本当にありがとうございました。

これからも、皆様方の活動、それぞれ行政としっかり連携協力しながら、私たちもいろいろ支援できることは支援をさせていただき、また皆様方団体同士でもいろいろ協力し合って、いろんな情報交換していただいて、この問題を洗い出ししていただいて、解決が図っていければなというふうに思っております。これからまず、私たちのつながり、私たちの連携が必要になると思っておりますので、しっかり協力して、子どもたちに向き合っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

長時間にわたり、御審議いただきましてまことにありがとうございました。それでは、令和6年第1回水戸市青少年問題協議会を閉会といたします。ありがとうございました。